

神よ、速やかに救い出してください

この詩編は 40:14-16 の再録である。比較的短く、目を通した印象は「神よ、**速やかに**わたしを救い出し、主よ、わたしを助けてください。」(2 節)、そして、「**速やかに**わたしを訪れてください。」(6 節 a)、「主よ、**遅れないで**ください。」(6 節 d) の「**速やかさ**」ではないだろうか。私たちは苦境の中で、救い、助け、訪れが「遅い」と感じることもあるのであろう。私の時と、神の時は違うと分かりながら、私たちは呻くのではないだろうか？！

1. 速やかに

ここでは登場しないが、「主よ、いつまでですか」という問いと共に、「速やかに」speedy に timely に主が助けてくださるよう信仰者は祈り、格闘する。「速やかに」は「急いで」(hūšāh) という意味で、6 節でも hūšāh が主の支援と救いに関して懇願され、最後に「遅れないで」と言われている。すずき自動車の「Swift」(素早い)という自動車になぜか心惹かれる。Hurry, make hasten「急いで」と少し違う、「軽やかさ」なのだろうか？シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」第 4 楽章を聴くと、早瀬を軽やかに泳ぐ鱒のイメージを思い起こす。

2. 「記念」

頭書には、「ダビデの詩。記念」とある。「記念」(ləhazkîr, zākar ザーカル) はヘブライ語聖書のキーワードの一つで「ゼカリヤ」という預言者の名は「主が記念して、覚えてくれている人」という意味である。主が私たちを覚え、記憶、記念してくださること、また、主の過去の救いの業を信仰者たちが記念することは慰めに満ちたことである。私たちは今、此処で、何を、誰を記念するのだろうか？ 私たちは主の晩餐において、「わたしの記念としてこのようにおこないなさい」(ルカ 22:19、参照 I コリント 11:24, 25) と命じられている。「ザーカル」のは元の意味は「記念の捧げもの」である。ギリシャ語の「アナムネーシス、思い出すこと、「記念」(anamnēsis) も重要な言葉である。主イエスご自身が「捧げもの」であることを踏まえながら、「記念すること」を思い出そう。元西ドイツの大統領のヴァイツゼッカーが 1985 年連邦議会で語った「荒野の 40 年」の 1 節は余りにも有名である。「われわれにとっての 5 月 8 日とは、何よりもまず人々が嘗めた辛酸を心に刻む(erinnern)日であり、同時にわれわれの歴史の歩みに思いをこらす日でもあります。… 罪の有無、幼老いずれを問わず、われわれ全員が過去を引き受けねばなりません。全員が過去からの帰結に関わっており、過去に対する責任を負わされているのであります。…問題は過去を克服することではありません。さようなことができるわけではありません。後になって過去を変えたり、起こらなかったことにするわけにはまいません。しかし、過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目(ママ)となります。」ドイツ語の「記憶すること」(erinnern) は「心に刻み、深く内面化する」という意味であり、ヘブライ語のザーカル、ギリシャ語のアナムネオーに繋がる伝統である。ダビデは自分の犯した罪と神の赦し、助けを記念し、教会は主イエスの受難を記念する。私たちは何を記念するのだろうか？ 現在生きる私たちは、日本社会の歴史的出来事の何を記念しようとしているのか？ 現政権が示すような明治維新への回帰であろうか？あるいは、敗戦によってもたらされた断絶、国民主権の誕生であろうか？ 個々の教会は何を記念するのですらうか？何を受け継いで、語り継いでいくのだろうか？！

3. 貧しく、身を屈めています

信仰者は自らを「貧しく」(‘ānī) また「貧乏」(wə’ebyōwn, needy) であると告白している。だからこそ、「速やかな」神の介入を祈るのである。

4. わたしのいのちをねらう者

ダビデは軍人でもあったからか敵への言及が多い。私たちに敵対する人々とはどのような人々か、あるいは、私たちが誰かの敵対者となっていないか考えてみよう。周囲には、信仰者たちのいのちを狙う者たち、災いを謀る者たち、はやしたてる者たちがいるというのである。

5. 神を尋ね求める人 (5 節)

しかし、信仰者は孤独の中に孤立してはおらず、「あなた (主なる神) を尋ね求める人 (məbaqšekā)、御救いを愛する人(‘ōhābē yašū’ātekā)の中におり、彼ら彼女らと共に主なる神を賛美する(yigdal 偉大なものにする)のである。